

第Ⅲ部 第二次事前評価調査報告書

目 次

第1章 調査団派遣について.....	67
1 - 1 調査目的.....	67
1 - 2 調査団構成.....	67
1 - 3 調査日程.....	68
1 - 4 ベースライン調査の分析枠組み.....	69
1 - 5 ベースライン調査ツールの開発.....	69
1 - 6 ベースライン調査の対象.....	70
第2章 調査結果.....	72
2 - 1 調査結果.....	72
第3章 今後のプロジェクト設計への提言.....	74
3 - 1 今後のプロジェクト設計への提言.....	74
3 - 2 プロジェクト設計上の留意点.....	77
付属資料.....	79
1. GPS・RNGPSのクラスを決定するための10指標.....	82
2. マイメンシン県カテゴリー別学校数.....	83
3. マイメンシン県奨学金試験.....	84
4. 調査質問紙、インタビュー項目、授業観察チェックリスト.....	85

第1章 調査団派遣について

1 - 1 調査目的

2002年10月の第一次事前調査の後、2003年4月より9月までパイプライン長期専門家（山本伸二 専門家）が派遣され、NAPE、PTIなど先方実施体制の確認を進めた。さらに、同年10月に短期専門家（馬場卓也 専門家）が派遣され、ローカルコンサルタントと共にベースライン調査を実施した。

本プロジェクトの目指すところは、PEDPⅡにおいても強調されている、教育の質的向上にある。そのため、ベースライン調査は、教育実践の中核である授業に注目し、

- (1) 協力対象予定地域（マイメンシン）における理科（Science and Environment）・数学科（Mathematics）の現状に関する基礎情報を収集すること
- (2) 実施予定のプロジェクトにおいて取り組むべき課題への示唆を得ること

を目的として実施された。

第二次事前評価調査団は、上記ベースライン調査の円滑かつ効率的な実施を支援することを目的として派遣された。

1 - 2 調査団構成

担当分野	所属先	氏名
授業研究	広島大学国際協力研究科（博士課程）	榎本 伸悦

1 - 3 調査日程

日 程	行程／訪問先	
	馬場専門家	証本団員
2003/10/23	関西空港出発	
2003/10/24	バンガラデシュ到着	
2003/10/25	DPE 表敬、コンサルタント打ち合わせ	
2003/10/26	JICA 表敬、NAPE 表敬	
2003/10/27	NAPE Director 表敬、Sadar GPS	
2003/10/28	Sadar GPS	
2003/10/29	Halghat UEO、RNGPS、GPS	
2003/10/30	Halaghat URC、RNGPS	関西空港（JL5113）→バンコク
2003/10/31	資料整理	バンコク→ダッカ（TG321）
2003/11/1	Halaghat GPS	Halaghat GPS
2003/11/2	Halaghat GPS	同 上
2003/11/3	Sadar RNGPS	Sadar RNGPS
2003/11/4	Sadar RNGPS	同 上
2003/11/5	NAPE Director 会合	NAPE 所長との会合
2003/11/6	コンサルタントモニター、協力隊隊員と懇談会	ローカルコンサルタントモニタリング、協力隊との懇談会
2003/11/7	バンガラデシュ出発	ローカルコンサルタントモニタリング
2003/11/8	関西空港到着	同 上
2003/11/9		同 上
2003/11/10		同 上
2003/11/11		同 上
2003/11/12		同 上
2003/11/13		同 上
2003/11/14		ダッカ→バンコク
2003/11/15		関西空港

1 - 4 ベースライン調査の分析枠組み

本ベースライン調査では、①授業の実態、②教育問題の把握、③生活のパターン、④教育職像、⑤教員研修、⑥その他、の六つの要因からバングラデシュ（特にマイメンシン）における小学校理数科教育の現状分析を行った。そのうえで授業を中心にまとめることを通じ、たとえば教員研修で要望としてあがっていることと実際の授業との関係というように、可能な限り授業の背景にあるものの考察を試みた。図1は本調査の分析枠組みを概念化したものである。

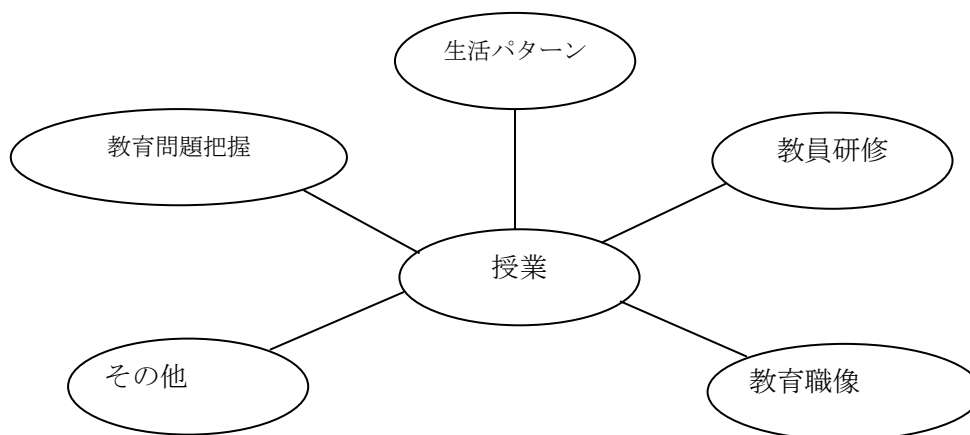


図1 授業を中心とした複数の要因

1 - 5 ベースライン調査ツールの開発

ベースライン調査に先立ち、広島大学が受託研究「バングラデシュ小学校理数科教育プロジェクト(仮称)実施に向けた調査項目に関する基礎調査」(2003年7月5日～9月30日)により、下に挙げる五つのツールの開発を行った。

- ① Questionnaire for Teachers
- ② Questionnaire for Pupils
- ③ Interview Items for Teachers
- ④ Interview Items for Head-Teachers
- ⑤ Lesson Observation Checklist

これらは、次の諸点を念頭に置きながら、開発されたものである。第一に、授業を教師（質問紙、インタビュー、授業案）、子ども（質問紙）、第三者の視点（観察チェックリスト）から分析する（①、②、③、⑤）。授業の改善は、本プロジェクトにとって最重要課題であるために、この部分は様々な角度より分析する必要がある。第二に、教育上の問題を校長と教師の視点より検討する（①、③、④）。これは学校関係者の個人レベルにおける認識である。教育の最前線に居る人たちの認識は重要な情報として受け止める必要があるだろう。第三に、生活のパターンを教師と子どもの側より分析した（①、②）。これは基礎的な情報を得るため、子どもや教師の生活パターンを知ることを目指したものであった。

1 - 6 ベースライン調査の対象

次に、調査対象として、マイメンシンにて4校（農村部／都市部、GPS／RNGPSを掛け合わせた四つのカテゴリーより1校ずつ）を選出した。そのためにまず、全12郡（表1参照）の中より、都市部としてSadar郡、農村部としてHaluaghat郡（マイメンシンの中心部より北へ50km、インド国境沿に位置する）を選定し、各郡にて、UEOとNAPEスペシャリストとの協議によって、標準的なGPSとRNGPSを選定するという手順を取った。さらに後者においてはできるだけ中心地から離れている学校であるという条件を加えた。

表1 マイメンシンのGPS、RNGPS数

District (県)	Upazila (郡)	No of Clusters (AUEO)	GPS	RNGPS	Trained HT (2003.9)	Trained AT
MYMENSING	MUKTAGACHHA	6	101	43	92	268
MYMENSING	TRISHAL	7	120	42	90	330
MYMENSING	BHALUKA	5	94	33	87	251
MYMENSING	GAFFARGAON	9	160	39	196	449
MYMENSING	NANDAIL	7	115	51	114	702
MYMENSING	ISWARGONJ	5	92	31	84	213
MYMENSING	HALUAGHAT	3	65	81	61	145
MYMENSING	FULBARIA	6	104	62	98	237
MYMENSING	GOURIPUR	5	90	69	81	247
MYMENSING	FULPUR	8	133	94	127	230
MYMENSING	DHUBAURA	2	43	38	40	97
MYMENSIGN	SADAR	8	132	26	102	365
	合計	71	1,249	609	1,172	3,534

マイメンシンでの調査期間は9日間（10月27日より11月4日）で、うち1日は休日であるために、各校2日ずつかけて次のような手順で調査を行った。

<第1日目>

- 校長表敬
- 授業観察(理科もしくは数学科)
- 子どもに対する質問紙（ただし、子どもの理解力の関係でインタビュー形式をとった）
- 教師に対する質問紙（教師もこのような質問紙に必ずしも慣れておらず、時々説明を要する場面が多々存在した）
- 教師インタビュー
- 校長インタビュー

<第2日目>

- 授業観察(理科もしくは数学科で見えていないもの)
- 子どもに対する質問紙（ただし、子どもの理解力の関係でインタビュー形式をとった）

- 教師に対する質問紙（教師もこのような質問紙に必ずしも慣れておらず、時々説明を要する場面が多々存在した）
- 教師インタビュー

調査訪問を実施した学校の情報は次のとおりである。

表 2 訪問した学校

カテゴリー	訪問日	学校名	クラス	校長名
Sadar GPS	10月27、28日	Bagmara Government Primary School	A	Jebunnesa Khanom
Haluaghat RNGPS	10月29、30日	Charbanglalia Primary School	B	MD. Nooruddin Miah
Haluaghat GPS	11月1、2日	Janinaty GPS	B	Shila Rani Bown
Sadar RNGPS	11月3、4日	Kalanpur RNGPS	B	MD Alauddin

またこれらに加えて、必要に応じて、DPEO、UEO、URC、各種学校などを訪問した。各郡の情報は次のとおりで、学校の所属するクラス（付属資料1を参照のこと）に位置付けられていることが分かる。

表 3 Sadar 郡における学校クラス

	A	B	C	D	Total	Teachers	Students
GPS	28	103	1	--	132	560	
RNGPS	1	21	4	--	26	104	

Cluster 8, Sub-cluster 30, AUEO 8

表 4 Haluaghat 郡における学校クラス

	A	B	C	D	Total	Teachers	Students
GPS	6	52	7	--	65	218	21,345
RNGPS	--	21	33	--	80	313	16,721

Cluster 3, Sub-cluster 12, AUEO 3

GPS と RNGPS の物理的な面での境界は定かではなく、設立時にいったん RNGPS とされたものが、GPS に移行することは難しいようである。RNGPS の中には、GPS よりも立派な建物を持つものもある。RNGPS と GPS の最大の差は、前者の教師は後者の教師の基本給の 90%のみを受け取るということである。その他の手当がつかないということで、低級に甘んじなければならない状況の中で多くのことを求めていると見られる。ただし、政府の側から見れば、これらの教師を一律に GPS の教師と同じ待遇にするほどの財政的基盤が整っていないと言える。

第2章 調査結果

2-1 調査結果

1-4「ベースライン調査の分析枠組み」において述べた分析項目に照らした調査結果は、以下のとおりである。

2-1-1 授業の実態

この部分は、今回の調査で中核を占めており、全情報の半分は授業に関するとも言える。それを教師の視点、子どもの視点、観察者の視点で分析する。しかし予想以上に、授業の中身、特に教師や子どもの発言、教師の板書や子どものノートが理解できないため、詳しい実態については報告書（プロトコル）を待ちたいと思う。

ただし印象で言うならば、当初予想したよりも授業は形（導入－展開－まとめ）をなしている。協力隊隊員の指摘によれば、最初のGPSは、その他の学校に比べて群を抜いて良いということだったので、通常の授業は見学した授業より質が低いと言えるだろう。ここで重要なことは、やる気になればこのレベルの授業が行えるということで、それは研修によって授業を改善できる可能性を示唆していると言える。もちろん改善の余地があることは言うまでもないことである。

それに対して、研修を実施する側のNAPEの人材にやや問題が生じそうである。つまり人間関係がNAPEの中で複雑であることと、必ずしもすべてのスペシャリストが能力と意欲において優れているとは限らないようだ。これについては、長期専門家が赴任してから慎重に対応してもらいたい。

2-1-2 教育問題の把握

この点については、校長と教師に現在の学校における問題点と理科・数学科を教える上での問題点を尋ねた。当初予想したより、農村部2校において教育上の問題点を指摘する声が少なかった。これは実際に問題がないからと解釈するよりも、むしろ問題がありすぎてどこから手をつけてよいのか分からないということを間接的に表していると言える。つまり現在は低位で安定している状態で、これを崩して上位に移動しようとするれば、多くのことを同時に抱え込む可能性がある。したがって、問題点を整理し、授業のみならず学校経営や研修制度の構築などを含めて、包括的に取り組む必要がある。

2-1-3 生活のパターン

今回の調査では、教師と子どもの生活パターンを尋ねた。農村部と都市部の子どもでは若干生活に違いが見えるようである。また多くの教師は午前（1、2学年：クラス担任制）と午後（3、4、5学年：教科担任制）の双方を教えているので、日中の大半は授業をしている形になる。その割には給料が低いので、大変な仕事量である。そのせいもあって、授業をしなかったり、授業をしても準備が十分になされていないかったりするようだ。

2-1-4 教育職像

教師と子どもに教育職について、なりたいと思うかどうか、他の職に付くとすれば何になりたいかなどを尋ねてみた。全般的にはやや肯定的な傾向があるように見える。しかし生活パターンのところとも関係して、低給料であるにもかかわらず、忙しい教職の実態を見ると、もう少し魅力ある職業

とすることが求められている。PEDPⅡ（2004年より6年間）の最終報告書が言うように、私たちが取り組まなければならない最大の課題は、「初等教育が真剣に取り組むに値しないという信念を変えることである」にあると思う。

2 - 1 - 5 教員研修

校長と教師にこれまでの教員研修の成果及び今後の教員研修の要望について尋ねた。両者ともに授業案作成、教材作成、実験教材の作成・実施などが挙げられていた。一方で成果として上がっていないが、他方で要望するというのは矛盾しているようにも思えるが、それだけニーズが高いと言えるだろう。ユニークな要望に絵の描き方というのがあった。教材を準備するために必要ということであった。

2 - 1 - 6 その他

UEO、AUEO、URC インストラクターなど、本プロジェクトに係る様々な関係者に対し、インタビュー調査を実施した。

第3章 今後のプロジェクト設計への提言

第2章にて取りまとめたベースライン調査の結果を踏まえ、本章においては今後のプロジェクト設計への提言と留意点を述べたい。

3-1 今後のプロジェクト設計への提言

3-1-1 プロジェクト開始時期

2002年11月に実施された事前調査では、プロジェクトとPEDPⅡとの整合性、NAPEでのC/P体制の脆弱さの2点が問題となっていた。しかしPEDPⅡは、既に最終段階に入っており、TPPができるのも時間の問題である。またNAPEにおけるC/Pの脆弱さは、理科・数学科が増員されてすでに5名（2名のスペシャリスト、3名のアシスタント・スペシャリスト）となっており、これらの問題点は解消しつつある。したがって2004年度早々にプロジェクトを始めることは十分可能な状況と言える。

3-1-2 プロジェクトにおける3層の活動

次にプロジェクトで行う活動について、3層に分けて考えたい(図2参照)。ただし細部についてはバングラデシュ側との協議 - PDM ワークショップを経てきめるべきであるので、ここでは大きな方向性について述べる。

(1) 授業の改善

授業は、PEDPⅡで述べる教育の質の中核を占めている。校長や教師へのインタビューから「教材の開発・利用」について、またスペシャリストとの議論より、「概念形成の重視、授業目的に見合った教授＝学習活動の実施」が求められていることがわかった。それに対して現実の授業では、数学は公式を使うための授業となって、理科ではわずかなデモンストレーションが見られる程度である。そこには日本の授業実践や教育研究が貢献することのできる余地がある。

(2) 学校経営の改善

ただし、このような授業改善は、教室レベルでの改善はもちろんのこと、学校経営・学級経営という視点も欠かせない。つまり、教師、子ども、保護者の向上心を育てたり、少ないリソースの有効活用を考えたりすることが重要である。そこに校長の果たす役割は大きい。

すべての学校において、予算を持っていないことが分かった（Contingency fundという経費が存在し、チョークや紙などはこれで購入している）が、校長が学校運営委員会（SMC）との協力で、例えば制服を購入している事例、図書を購入している事例があった。

(3) 職能成長制度の整備

①、②で述べた質的向上を図っていく上で、1校ずつに働きかけていけるわけではない。ちなみにマイメンシンでのGPS、RNGPSの学校数は、1,249校、609校あり、教師数は4,977名、2,374名である。そこにはそれだけの数の学校や教師に働きかけていくシステムが求められる。そこで、NAPE-PTI-URCという既存の制度を利用し、教師の一貫した職能成長を図っていく必要がある。またそれを持続的なものにしていくためにも、既存の制度の中に組み込んでいくことが求められる。

後者については、研修における予算の一般予算（Revenue）化が重要である。その意味では現在ある制度を一度正確に整理して、すでに Revenue 化されているもの、また開発予算（Development Budget）で動いているもので有望なものを Revenue 化することなどについて検討すべきであろう。また地域レベルでの活動費としては、受益者より集金することも視野に入れる必要があるだろう。そうすることで、自前の予算を持ち、内的自立性を高めていくことができると思う。

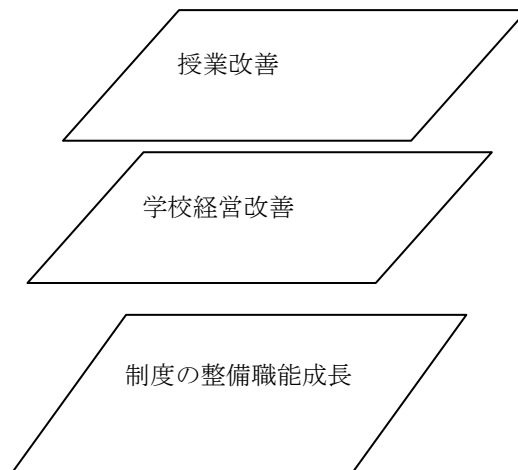


図2 プロジェクトにおける3層の活動

3 - 1 - 3 拠点作り（NAPE、PTI）

さて、この3層の活動を別な観点より述べたい。3層の活動を考慮に入れることは重要であっても、教室レベルや学校レベルにおいておのおのに対して働きかけられるわけではない。そこで③に述べたように、職能成長制度が必要になり、そのためには次の二つのアプローチが求められる。つまり一つは拠点作りであり、もう一つは情報の伝達システムである。

まず前者について、NAPE での人員は増強されたのだが、今度は別の問題 - NAPE 中での人間関係 - が生じつつある。昨年考えていたように PTI インストラクターを含めて、拠点作りをしていく必要があり、その際にバングラデシュ文化 - ヒンジャーに配慮しなければならない。C/P 研修など、人選には注意を要するだろう。また、これらの人々をチームとして育て上げていくには、やはり長期専門家の存在が欠かせない。

3 - 1 - 4 伝達システムの構築（PTI、URC、Sub-cluster）

次に後者について、拠点で開発された教材や、ある学校で行われている実践例をどのようにすくいあげて、他に広めるかを考えたときに、その伝達のシステムを構築しなければならない。ここでは、次の五つが考えられる。

（1）PTI(C-in-Ed)

一番しっかりした組織が存在する。また次に上げる URC の監督機関でもある。そこで PTI を強化することは重要である。しかし既にこの訓練を受けてしまっている教師（表 1 における Trained）に対しては、このアプローチでは、届かない恐れがある。

(2) URC

UNICEF の IDEAL プロジェクトによって URC は全県に広がりつつある。また PTI はほぼ各県に一つであるのに対して、URC は各県に複数個（たとえば Mymensign では 12 郡）存在し、教師にとっての移動の便利さを考えると有利である。しかし、財政的にはいまだ Development であること、人的にはインストラクター、AUEO などの数名のスタッフだけであるという点で、政府のシステムの中にまだ十分組み込まれていると言いがたく、その脆弱さは否めない。しかし頻繁に講習会を考えるとあれば、既に建物があるわけであり、十分に活用可能である。このアプローチでは Trained もカバーすることが可能である。

<Haluaghat の事例>

1 年に 1 回程度の頻度

1 グループは 6 日間の研修

2003 年度は数学の研修を実施し、340 人の教師が参加した。6 月、7 月の二か月に渡って実施された。総予算は 350,000 タカで、IDEAL より出ている。参加者から見て、宿舎は親戚や友人のところに泊まり、交通費は IDEAL から予算が出されている。

表 5 Mymensign の URC における人的配置

Upazila	Instructor	AUEO	Computer operator	Night guard
MUKTAGACHHA	1	1	1	1
TRISHAL	1	1	1	1
BHALUKA	1	1	1	1
GAFFARGAON	1		1	1
NANDAIL	1		1	1
ISWARGONJ	1		1	1
HALUAGHAT	1			
FULBARIA	1		1	1
GOURIPUR	1	1	1	1
FULPUR	1		1	1
DHUBAURA	1	1	1	1
SADAR	(1)	1(in Japan)	1	1
合計				

(3) サブ・クラスター研修

郡がいくつかのクラスターに分けられ、さらにサブ・クラスターに分けられる。このサブ・クラスターが一番学校に近い単位であるが、Haluaghat 郡では、予算がないために動いていないということであった。また物理的に見ても、特定の建物が存在するわけではなく、非常に基盤が弱いと言えよう。ところがこのレベルでの校長会は現在も存在している。

(4) AUEO や校長の役割重視

これらのシステムに加えて、AUEO という日本の指導主事にあたる人及び地域の校長が一堂に会する機会を有効に活用していきたい。Halughat の事例では、校長は月に一度ウパジラ事務所に会し、月に二度サブ・クラスターレベルで会する。Sadar では後者が二月に一度の割合ということであった。また AUEO は、二月に一度 71 名が Sadar にある DPEO に会する。このような機会を捉えては、ニューズレター等でプロジェクトの広報をすることができれば、効率よく情報を共有することができ、フィードバックを得ることができる。

3 - 2 プロジェクト設計上の留意点

3 - 2 - 1 GPS、RNGPS の位置

表 3、4 から言えることは、児童数で見ると GPS と RNGPS は全体の 8 割を占めているにもかかわらず、PTI 附属学校や中等学校附属学校と比較して、また宗教系の学校と比較して、進級率、児童数/教師数において、かなり状況が悪いことが分かる。したがってこれらの学校の質的改善の必要性がわかるとともに、その難しさも推し量られる。

表 6 Mymensing の初等教育全体における GPS、RNGPS の占める割合

	GPS	RNGPS
学校数において全体に占める割合	45	22
教師数において全体に占める割合	48	23
児童数において全体に占める割合	61	22

表 7 Mymensing の初等教育全体における GPS、RNGPS の質

	教員数/ 学校数	児童数/ 学校数	児童数/ 教師数	進級率				
				1→2	2→3	3→4	4→5	1→5
政府小学校 (GPS)	4	334	84	93	82	85	89	62
PTI 附属実験 小学校 (EXP)	5	185	37	125	147	77	83	94
登録非政府 小学校 (RNGPS)	4	246	63	80	66	86	82	47
コミュニテイ 小学校 (COM)	3	188	68	76	46	76	54	19
サテライト 小学校 (SAT)	1	37	36	77	N.A.	N.A.	N.A.	N.A.
マドラシャ 小学校 (EM)	4	180	44	218	98	93	88	81
幼稚園併設小学校 (KG)	7	168	23	75	71	79	100	57
(完全) NGO 小学校 (NGO)	4	170	42	95	89	97	100	86
非登録非政府小学校 (NGPS)	3	144	42	70	59	80	86	41
中等マドラシャ附属 小学校 (H/A MAD)	4	129	34	37	84	80	113	76
中等学校附属 小学校 (H/A PS)	5	210	42	84	94	101	116	109

注 進級率では各学年ごとの児童数に大きな変化がないということで計算したものである。

3 - 2 - 2 登録者数と登校者数

登録されている児童の数と登校する児童の数が必ずしも同じではない。かなりの数が欠席する場合がある。

3 - 2 - 3 教室数

午前は低学年（1、2年生）、午後是中・高学年（3、4、5年生）と2部制になっているために、3教室しかなかったりする。この二部制は教師の負担となることを考えると、1部制に戻したいところであるが、予算面を考えると当面は困難である。

3 - 2 - 4 教師の給与

ある学校で、教師は自分の名前をアルファベットで書けなかった。男子教員が一家を養っていくには、給与が低すぎる。また、就職難により、若手の教員の中には学歴の高いものもいるが、彼らの中には腰掛のものが多い。

付属資料

1. GPS・RNGPSのクラスを決定するための10指標
2. マイメンシン県カテゴリー別学校数
3. マイメンシン県奨学金試験
4. 調査質問紙、インタビュー項目、授業観察チェックリスト

1. GPS・RNGPSのクラスを決定するための10指標

1. 地域における入学率
90-100%ならば10点。
2. 出席率
前年の出席率を調べる。10点。
3. ドロップアウト率
10%までならば10点。
4. SMC 会合
年間11回以上ならば10点。
5. PTA 会合
年間3回以上ならば10点。
6. 奨学金試験の結果
一人以上の子どもが最高のランクに位置付けられるならば、10点。
7. 物理的側面
花壇、トイレ、水施設など、5-7つの小項目。10点。
8. 課外活動
9. 記録 (Record and registrar)

100点満点のうち、これらの合計によって、学校クラスが決定される。

A	80-
B	60-80
C	40-60
D	-40

学校の種類	学校数	教員数		1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		合計	
		合計	女性	合計	女性	合計	女性	合計	女性	合計	女性	合計	女性	合計	女性
政府小学校 (GPS)	1,249	4,977	1,774	102,426	52,790	95,228	47,848	84,088	42,533	71,393	35,572	63,566	52,360	416,701	231,103
PTI 附属実験小学校 (EXP)	1	5	2	32	17	40	20	47	29	36	23	30	11	185	100
登録非政府小学校 (RNGPS)	609	2,374	548	42,941	20,877	34,269	16,782	28,449	14,018	24,477	12,119	19,973	9,848	150,109	73,644
コミュニティ小学校 (COM)	114	317	162	7,766	4,221	5,917	2,782	3,566	1,717	2,703	1,427	1,446	694	21,398	10,841
サテライト小学校 (SAT)	250	257	240	5,223	2,531	4,004	2,087	0	0	0	0	0	0	9,227	4,618
マドラシャ小学校 (EM)	93	380	61	3,676	1,791	8,011	1,686	3,597	1,526	3,354	1,438	2,960	1,205	16,701	7,646
幼稚園併設小学校 (KG)	52	374	236	2,432	988	1,829	895	1,738	845	1,376	660	1,382	701	8,757	4,089
(完全) NGO 小学校 (NGO)	16	64	37	598	290	566	278	530	256	512	231	512	236	2,718	1,291
非登録非政府小学校 (NGPS)	79	268	116	3,585	1,768	2,500	1,178	2,114	1,016	1,689	844	1,455	646	11,343	5,452
中等マドラシャ附属小学校 (H/A MAD)	276	1,059	119	8,504	3,638	3,114	3,767	7,114	2,947	5,662	2,704	6,422	2,931	35,713	15,987
中等学校附属小学校 (H/A PS)	54	267	119	2,360	862	1,970	733	2,209	764	2,226	806	2,573	950	11,338	4,115
合計	2,793	10,342	3,414	179,543	89,773	157,448	78,056	133,452	65,651	113,428	55,824	100,319	69,582	684,190	358,886

出所 : Directorate of Primary Education(2000) *Primary Education Statistics In Bangladesh-2001*, Primary and Mass Education Diviison, p.90.

県	受験者数		不合格		33-40%		41-50%		51-60%		61-70%		71-80%		81-90%		91-100%	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
マイメンション	6,227	5,044	4,390	3,742	48	29	383	250	476	328	348	278	321	254	208	156	17	7
			70.5%	74.2%	0.8%	0.6%	6.2%	5.0%	7.6%	6.5%	6.2%	5.5%	5.2%	5.0%	3.3%	3.1%	0.3%	0.1%

出所：Directorate of Primary Education(2000) *Primary Education Statistics In Bangladesh-2001*, Primary and Mass Education Division, p.141.

4. 調査質問紙、インタビュー項目、授業観察チェックリスト

Questionnaire for Teachers

NAME : GRADE : SCHOOL :

DATE : SUBJECT : TOPIC :

Please answer the following questions by writing your opinion where blank space is provided or by placing a tick in the appropriate box where multi-choices or the rating scale is provided.

(Rating scale: 0 – never, 1 –seldom/ to a little extent, 2 – sometimes/ to some extent, 3 – often/ to a considerable extent, 4 - very often/ to a great extent)

1-1) Why have you become teacher?

- stability (salary) high status liking the job
being recommended others []

1-2) If you were not teacher, then what job would you be engaged in?

[]

1-3) How many minutes does it take for you to come to school?

- within 10min. 10-20 min. about 30min. 40min.-1hr more than 1 hr

		0	1	2	3	4
1-4)	I think that teaching job is respected in society.					
1-5)	I think that teaching is enjoyable.					
1-6)	I think that children study hard.					

1-7) Please indicate your life pattern of school day in the bar given below, using the following numbers. You can refer to the example.

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24

(Example)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
①					②	,	④	③					⑦					⑧		⑩		①	
					③							③											

- ① : Sleep ② : Wake-up ③ : Breakfast/Lunch/Supper ④ : School ⑤ : Nap ⑥ : Playing outside
 ⑦ : Household ⑧ : Relaxations/Watching TV ⑨:Study (Homework) ⑩ : Lesson Preparation

5-1) What topic do you think is the most necessary if new training course is designed?

[

]

Thank you very much for your cooperation.

Please attach your lesson plan for today.

3-2) What do you think is the biggest fun during science lesson?

[]

		0	1	2	3	4
3-3)	I think that science is easy.					
3-4)	I think that mathematics is related to daily life.					

4-1) What do you think is the most important in today's lesson?

[]

4-2) If you don't understand something in the lesson, whom do you consult with?

- head-teacher teacher friend
family others []

		0	1	2	3	4
4-3)	I understood today's lesson.					
4-4)	I think today's lesson is the same as usual.					

Interview Items for Teachers

Please answer freely the following items. In case you need some clarification, you can ask interviewer any time.

[Problem]

- 1-1) What do you think is the biggest problem in your school?
- 1-2) What do you think is the biggest problematic in teaching mathematics/ science in you class?
- 1-3) What kind of action do you take against that problem?

[Today's lesson]

- 2-1) What was the purpose of today's lesson?
- 2-2) Do you think it was attained?
- 2-3) What kind of lesson do you think the best for you?

[In-service training]

- 3-1) Have you ever had training before?
- 3-2) Which training, that you had before, do you think is useful for your teaching?
- 3-3) What kind of training do you think is necessary for improvement of your teaching, if new training course is designed?

Interview Items for Head-Teachers

Please answer freely the following items. In case you need clarification you can ask interviewer any time.

[Problem]

- 1-1) What do you think is the most problematic in your school?
- 1-2) What do you think is the most problematic in teaching mathematics/ science in you class?
- 1-3) What kind of action do you take against that problem as an administrator?
- 1-4) Do you sometimes observe lessons by teachers?
- 1-5) What kind of advice do you give to young teachers?

[In-service training]

- 2-1) Do you see any impact of in-service course offered to teachers in school?
- 2-2) What kind of training do you think is necessary for teachers in your school, if new training course is designed?

	The children are engaged in learning.					
	The teacher combines individual work and group work appropriately.					
Summary	At the end of the lesson, the teacher summarizes the lesson.					
	The teacher assigns home work at the end of lesson very clearly.					
Describe objective of today' lesson.						
Describe problems/ activities.						
Describe children's opinions.						

第IV部 第三次事前評価調査報告書

目次

第IV部 第三次事前評価調査報告書	96
第1章 調査団派遣について.....	100
1 - 1 調査の目的.....	100
1 - 2 調査団構成.....	100
1 - 3 調査日程	101
1 - 4 主要面談者.....	102
第2章 調査結果の概要／団長所感.....	103
2 - 1 団長所感	103
2 - 2 ミニッツ署名後の関連機関との協議結果と今後の計画.....	106
付属資料.....	110
1. コンサルタント報告書	112
地 図.....	116
写 真.....	117
第1章 バングラデシュ概観.....	122
第2章 教育政策	123
2 - 1 上位計画.....	123
2 - 2 教育計画.....	123
第3章 初等教育行財政	128
3 - 1 初等教育行政.....	128
3 - 2 初等教育財政.....	130
第4章 教育制度	131
4 - 1 全体概要.....	131
4 - 2 初等教育.....	131
第5章 初等教育の現状	136
5 - 1 就学者数と就学率	136
5 - 2 修了率と試験.....	137
5 - 3 学習理解と学業成績.....	138
5 - 4 学校運営.....	141
第6章 教員教育	143

6 - 1	教員採用・配置	143
6 - 2	教員教育	143
第7章 初等理数科教育教科プロジェクト		149
7 - 1	プロジェクトの要請内容	149
7 - 2	プロジェクトの位置付け	149
7 - 3	プロジェクトの形成過程	150
7 - 4	活動計画	152
7 - 5	関連機関の実施体制	152
第8章 今後への留意事項		161
8 - 1	人口大国への基礎教育支援	161
8 - 2	科目間（理科と算数）の比重	161
8 - 3	教育パッケージの作成	161
8 - 4	首都ダッカでの活動の重要性	162
8 - 5	パイロット校の選定	162
8 - 6	バングラデシュ側負担事項	162
8 - 7	JOCVとの連携	163
別添資料		164
1.	1部制小学校標準週間時間割	167
2.	小学校 2003 年度学年末試験結果	168
3.	1997 年初等大衆教育局通達 References No. PMED/admin-4/4 d -1/97/796	172
4.	マイメンシン県小学校ランク付け表	174
5.	NAPE 2002-03 年度研修実績、2003-04 年度研修及び活動計画	175
6.	PTI 標準週間時間割	179
7.	マイメンシン県 PTI 週間時間割	180
8.	C-in-Ed 研修科目	181
9.	問題系図	182
10.	目的系図	183
11.	PDM (Second Draft)	184
12.	活動計画 (Plan of Operation)	186
13.	Organization of NAPE Faculty into Development	187
14.	NAPE 2002-03 年度予算執行実績	188
15.	NAPE 2003-04 年度予算執行計画	190
16.	ガジプール県 PTI2002-03 年度予算実績	192
17.	ガジプール県 Lotifpur URC 年間活動計画	193
18.	URC 小学校訪問時のモニタリングフォーマット (和訳)	194

第1章 調査団派遣について

1-1 調査の目的

第三次事前評価調査は、今後の R/D 署名に向けてプロジェクトサイトや具体的協力項目、さらに PDM・PO（案）の作成といったプロジェクトの詳細につき先方関係機関と協議の上合意することを目的として実施された。

具体的な調査内容は以下のとおりである。

プロジェクトサイトにつき合意するとともに、協力内容についてバングラデシュ側関係機関と問題分析・目的分析を行い、共通のプロジェクト・コンセプトを構築する。

プロジェクトサイトにおける初等教育行政の実施体制ならびに現職教員研修の現状と課題について確認し、プロジェクトの妥当性を詳細に検討する。

プロジェクトにて実施する具体的活動及び期待される成果につき、関連機関と協議・設計し、あわせてモニタリング評価の指標についても検討する。

1-2 調査団構成

担当分野	所属先	氏名
団長・総括	広島大学国際協力研究科	馬場 卓也
協力企画	独立行政法人 国際協力機構	小泉 高子
プロジェクト効果分析	(有) アイエムジー	高橋 悟

1 - 3 調査日程

調査期間：2004年1月16日～4月4日

月日		活動			備考
		馬場団長	小泉団員	高橋団員	
2/21	土	関空発 (18:45 TG727) → バンコク着 (22:55)	成田発 (10:55 JL717)→ バンコク着 (15:55)	1/17～現地調査	
2/22	日	バンコク発 (10:30 TG321)→ダッカ着(12:00)			
		JICA事務所打合せ、財務省海外援助局 (ERD) 表敬、日本大使館表敬			
2/23	月	PCMワークショップ (於ダッカ)			
		初等大衆教育省 (MOPME) 表敬、初等教育局 (DPE) 表敬			
2/24	火	ワークショップ結果分析、ミニッツ案作成			臨時休日
		ADBとの意見交換、UNICEFとの意見交換			
2/25	水	ミニッツ案協議 (MOPME、DPE)			
		日本大使館報告、ミニッツ署名			
2/26	木	ダッカ発 (13:10 TG322)→ バンコク着(16:30)	プロジェクト活動に係る協議 (DPE訓練 課)		
		バンコク発 (23:59 TG622)	JOCVとの連携に係る協議 (田坂JOCV調整 員)		
2/27	金	関空着 (07:10)	移動 (ダッカ→マイメンシン)、協力隊と の懇談会		
2/28	土		NAPEとの協議 (PDM第一案に係る意見交 換)		ハルタル (ゼ ネスト)
2/29	日		移動 (マイメンシン→ ダッカ)	POワークショップ準 備	
			JICA事務所報告	POワークショップ (於NAPE)	
3/1	月		ダッカ発 (13:10 TG322)→バンコク着 (16:30)	現地調査継続	
			バンコク発 (22:30 JL716)		
3/2	火		成田着 (06:30)	↓	
↓	↓				
4/1	木			JICA事務所報告	
4/2	金			データ分析	
4/3	土			ダッカ発 (13:10 TG322)→バンコク着 (16:30)	
				バンコク発 (22:30 JL716)	
4/4	日			成田着 (06:30)	

1 - 4 主要面談者

(1) バングラデシュ側

<MOPME>

Joint Secretary (Development)

Muhammad Nazrul Islam

Deputy Chief (Planning)

MD.Altaf Hossain

<DPE>

Director (Planning & Development)

AKM Abdul Muqtadir

Director (Training)

MD.Sultan Miah

Assistant Director (Training)

S.S.M.Ali Reza

Assistant Director (Training)

MD.Serajul Islam

<NAPE>

Director (In Charge)

MD.Nazrul Islam

Deputy Director (Evaluation)

MD.Mustaeen Billah

<ERD>

Deputy Secretary

Mahmudul Huq Bhuiyan

(2) 国際機関

<UNICEF>

Chief

Dr.James Jennings

<ADB>

Team Leader, Program Liaison Unit

Jahed-Ur Rahman

(3) 日本側

<在バングラデシュ日本国大使館>

大使

堀口 松城

参事官

紀谷 昌彦

二等書記官

柿沼 孝治

<JICA バングラデシュ事務所>

所長

坂本 隆

次長

河崎 充良

所員

小林 美弥子

青年海外協力隊調整員

田坂 厚

教育担当アドバイザー

Dr.Mizanur Rahman Shelley

第2章 調査結果の概要／団長所感

2-1 団長所感

第三次事前調査団は、第一次事前調査（2002年10月）、第二次事前調査（2003年10月-11月）の結果を踏まえて、実施されたものである。第一次では、バングラデシュ初等教育分野を包括する PEDP II の枠組みと本プロジェクトの整合性について確認した。その際に、C/P 機関となる予定の NAPE において理数科専門家の人的な脆弱さ（当時2名）が指摘された。第二次では、この点について再確認する（2003年11月時点で5名に増員）とともに、本プロジェクトの中核を占める授業の質に関して調査を行い、「研修を通じた取り組みのおかげで、変化は起きつつあるものの、教科目的を十分に反映せず表面的な変化にとどまっていた」ことが分かった。

ここではこれらを踏まえて実施された今回の第三次調査の概要を、各々の目的に対する成果という形で概括したい。

2-1-1 プロジェクトのコンセプト及びサイト

2月23日（月）にバングラデシュ側 DPE、NAPE、PTI などからの参加者を得て、プロジェクト・サイクル・マネージメント（PCM）ワークショップを実施し、これら関係者と意見交換を行うことで、共通のプロジェクト・コンセプトである PDM（案）を作成した。この共通コンセプトを元に M/M を作成し、2月26日（木）にバングラデシュ側援助窓口である ERD にて調印した。今後は本 PDM 及び M/M が指針となり、プロジェクトが準備・実施されていく予定である。

またプロジェクト・サイトについて、目的「ターゲット地域の NAPE - PTI - URC、UEO - パイロット校の各層において理数科の教授が改善される」の実現可能性を考慮して、開始段階ではマイメンシン県のみを主たる協力対象とすることを合意した。ただし、これまで算数ドリルなどで実績のあるガジプール県については、中間評価の際に予定通りの成果を生んでいることを確認した上で、プロジェクト活動地域に加えることを検討することとした。

2-1-2 プロジェクトの妥当性

プロジェクトの妥当性についてであるが、PDM との関連で意見交換を行った。またワークショップに加えて、PEDP II を主管する ADB や、URC にて類似の教員研修を行う UNICEF とも意見交換を行い、上記活動が PEDP II と整合性を持っていることが確認された。

2-1-3 プロジェクトの活動

上述の PDM 作成に当たり、次の活動を実施することで合意した。

- NAPE、PTI、URC、UEO、パイロット校¹における理数科教育の質的改善のために、教授サイクルの各段階－計画、実施、評価－を通して教師の力量を高めていく。
- 子どもの現状などに関して教育データベースを構築する。
- NAPE、PTI、URC、UEO において研修機会を増やす。
- PTI 及びパイロット校におけるカリキュラムや評価の仕方について分析する。
- NAPE、PTI、URC、UEO、パイロット校と定期的にワークショップを開催する。

¹ 本プロジェクトにおける活動成果を学校レベルにて確認するために選んだ学校を指す。マイメンシン県には12郡があるが、その中より都市部と農村部の特徴を持つ2郡を選出し、各々よりGPS、RNGPSを一校ずつ選出する。

- 教育目的や教授法まで含めた教材開発を行い、それらが中央にて認定される。

ここに述べられた活動を、研修制度の階層－NAPE、PTI、URC、UEO、パイロット校－別に、まとめなおしたものが、資料1である。これらは、研究開発、研修、協議会、巡回より成り立ち、それらが有機的に連関することで、プロジェクトが目的とする教授の質的向上をなしうる。

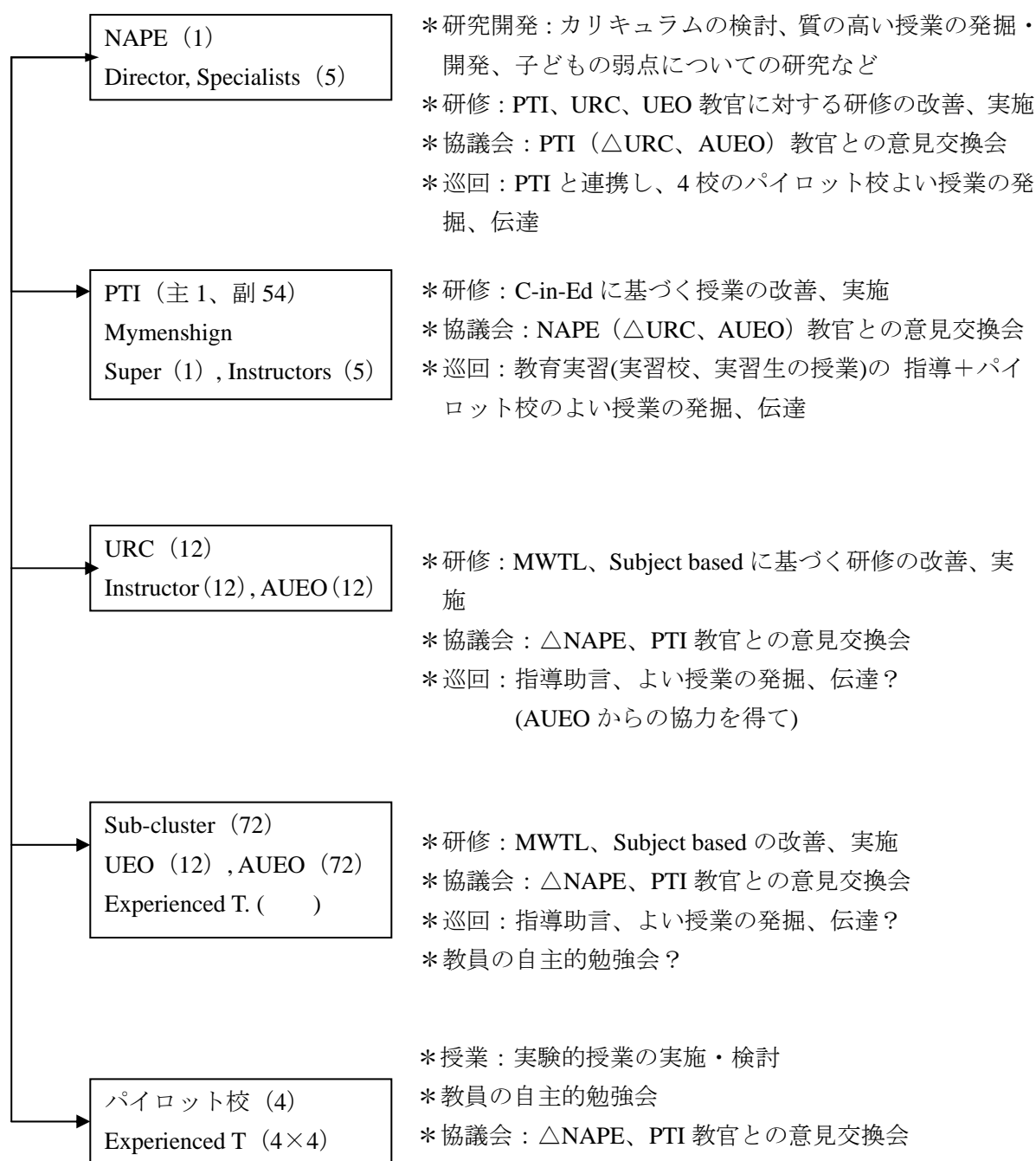
2 - 1 - 4 JOCV との連携

なお、本プロジェクトを実施する上で鍵を握り、留意事項としてあがっていた「協力隊との連携」について、本調査団の考えを述べたい。

他国における理数科教育プロジェクトと比較して、本プロジェクトの特徴は次の二点である。小学校教育特に授業の改善を目指すので、活動において教授言語（ベンガル語）の重要度は高い。 Bangladesh 初等教育分野における近年の援助協調の動向を踏まえ、本プロジェクトでは縦の関係（NAPE - PTI - URC、UEO - パイロット校）と横の関係（全 PTI）のバランスを取る必要がある。これらの特徴－ベンガル語と対象の広がりとバランス－を考えると、JOCV 隊員の存在は貴重である。したがって原則として JOCV 隊員の自発性を尊重しつつ、本プロジェクトにおいては JOCV 隊員との連携を積極的に考慮する必要がある。ただし、待遇面において JOCV とプロジェクト専門家の間には格段の差があり、その点について十分留意しなければ混乱をきたす可能性があることにも十分留意する必要があるだろう。

以上、短期間ではあったが、効率的に PDM の作成、M/M の調印を行い、所期の目的を達成することができたことは、多くの関係者による尽力が大きい。本調査団の団長として、この場をお借りして謝意を表したい。

資料1 プロジェクトとの関連で各レベルでの活動と連携



注：次の二点に留意する

- ・ 授業を反省的に見ることで、教師の力量を高める。
- ・ 各層及び各層間における教員が話し合う。

2 - 2 ミニッツ署名後の関連機関との協議結果と今後の計画

2 - 2 - 1 DPE 訓練課 (Training Division) 課長との協議 (2/26)

当方よりミニッツ及びPDM (第一案) を手交し、①本PDM (案) は3月中に更にバングラデシュ - 日本双方の協議を重ね、最終版とする予定であること、②訓練課はサブクラスター研修を管轄しており本プロジェクトとの関連が非常に深いため、プロジェクト開始後の具体的な連携活動のあり方 (JICAによる技術協力項目) について3月中を目途にコメントを頂きたい、と説明・要望した。先方からは、①サブクラスター研修では既に76種類の教材を作成済で今後も継続して作成予定のため、可能であれば印刷経費の負担を要望したいところである、②しかしJICA支援が技術協力ならば、a) 今後作成予定のサブクラスター研修教材に関する技術的助言、b) 作成された研修教材のAUEO向けワークショップへの支援 (教材の使い方) の2点を要望したい、との回答があった。

また、訓練課長から見たNAPEの現状と課題につき質問したところ、①調査研究が中心で訓練活動が少ない (特にPTI教員に対する研修機会が少ない)、②教育現場の教員との繋がりが全くない、との指摘があった。

なお、同席した同課職員によるとサブクラスター研修はPEDP IIの開始の遅れ (資金のストップ) に伴い、昨年半ばより活動停止状態にある地域が多い (UNICEF支援のマイメンシン県ほか3県、ADB支援の2県など)。しかしPEDP IIが開始 (本年4-5月頃と予測) されればプールファンドにより再開見込みとの由であった。

2 - 2 - 2 田坂 JOCV 調整員 (教育分野担当) との協議 (2/26)

同調整員は1月に着任したばかりのため、まず当方よりミニッツ・PDM (第一案) 及び団長所感に基づきプロジェクト概要を説明し、ベンガル語で授業が行なわれる初等レベルの教育現場 (授業) での変化をターゲットとする本プロジェクトにおいては、協力隊との連携が非常に重要となる旨説明した。先方からは、①協力隊も着任当初は状況把握・コミュニケーション能力向上などが十分でないが、半年程度で飛躍的に伸びることが多い、②現在赴任中の隊員はプロジェクト前提で派遣されたわけではないので、あくまで各人の自由意志でプロジェクトの参画の度合いを設定する必要がある、との説明があった。

なおマイメンシンについては4~7月にURCに3名が新たに着任予定である。プロジェクトとの連携は既に赴任前に説明されているものの、100%プロジェクト活動とするより、ある程度の自由裁量を残すとの前提で進める方針で合意した。

2 - 2 - 3 米山 JOCV (マイメンシン URC 配属・理数科教師) との面談 (2/27)

同隊員は2003年7月着任し、URCでの現職教員研修やURCモデル校での授業等を担当している。当方より、①プロジェクト概要 (現時点) 及び②開始へ向けた準備状況等につき説明したうえで、活動状況等につき質問したところ、①URCでの現職教員研修を見て改善点を種々提案したが、UNICEF担当者より「論理的には正しいが現実的でない」と指摘され、その後モデル校における生徒への直接指導に重点を移している、②当該モデル校における他教員の授業で顕著なのは、理解していない子供を無視してどんどん授業を進めること、との報告があった。

同隊員からは更に、URCとプロジェクトとの関連で、③配属されているURCモデル校は比較的年齢の高い (自分の教授スタイルが固まった) 教員が多く、これから教授法を変えようとしてもかなり難しい。その意味では今回プロジェクトを通じPTIにおける資格付与研修の改善を目指すのは効果が

高いと思われる、④URC 隊員に必要なのは理数科の高度な知識・経験より、低学年児童がつまづきやすい概念（例：算数の位取りや分数）を活動（例：数え棒・ブロックなど）を通じ体験的に理解させる技術、よって今後 URC 隊員の職種は現行の「理数科教師」から「小学校教諭」に変更したほうがよい（隊員報告書でも提言済の由）、とのコメント・提言があった。

2 - 2 - 4 NAPE との協議 (2/28)

NAPE 所長・理数科専門官・評価担当次長に対し、①PDM 第一案詳細及び②プロジェクト開始（本年 7 月を目途）へ向けたスケジュールを説明、PDM 最終案の作成へ向け積極的に意見を出してくれるよう求めた。PDM 第一案に関する会合当日の主な議論は以下の通り。

(1) ベースライン調査

昨年 11 月馬場助教授が小規模な質的調査（授業分析）を実施済だが、マイメンシン県全体に関し十分なサンプル数をとって実施する必要があるとの方針で一致。NAPE 専門官はプロジェクト開始前に着手を希望。評価ツールの見直しの必要性の有無、調査項目の詳細など、馬場助教授と詳細検討していくことで合意。

(2) assessment validity (PDM アウトプット③)

「教員の知識が不十分な分野は生徒も間違えやすい」との調査結果をふまえ、Item analysis を加えることで合意。

(3) ニュースレター

NAPE からは英 ESTEEM (Effective Schools Through Enhanced Education Management) プロジェクトの例に準じ、プロジェクト独自のニュースレターを発行してはとの案が出されたが、当方からは本プロジェクトは期間限定（5 年間のみ）であり、既存の NAPE ニュースレターを活用してプロジェクトを広報したい旨述べた。同ニュースレターは年 2 回発行している。次号（6 月）には NAPE 所長の日本研修報告、プロジェクト概要紹介等を掲載することで合意した。

なお NAPE 所長より、独法化後は初等教育研究に関する学術雑誌 (academic journal) の刊行開始を計画しているとの発言があった。右に対する本プロジェクトの支援については特に論議されなかったが、NAPE の研究能力強化の意味から検討する価値があると考えられる。

(4) C/P 本邦研修

当方より、本プロジェクトは教員研修関連の多数の機関が参画する一方、C/P 本邦研修の枠は限られるので、向こう 5 年間につきバ側で研修計画要望が作成できないかと打診したところ、NAPE からは①NAPE は NAPE 及び PTI 関係者の分は研修要望をとりまとめられる、②同様に DPE は DPE と URC について所管、③MOPME 分は彼らが独自に作成するであろう、との回答があった。

(5) 専門家執務室

当方より、プロジェクト開始後は 3~4 名の専門家が赴任予定であり、山本専門家が使用していた部屋より広い執務室が必要である旨申し入れたところ、所長より、現行の研修室の一つを提供するとの回答を得た（後で確認視察したところ 3~4 名の専門家の執務室及び会議スペースとして適当と思

われる広さであった)。

(6) ランニングコスト

電気代は NAPE 負担で合意。但し電話代(含むインターネット接続費)はプロジェクトで負担してほしい旨、先方より要望があった(上記は山本専門家赴任中と同じ扱いの由)。

(6) セミナー、ワークショップ

NAPE/PTI/URC/学校の縦の連携を強化するための合同セミナーに関し、NAPE の通常予算(revenue budget)での負担を当方より求めたところ、先方は①通常予算化には NAPE の Board of Governance の承認が必要、②ドナー(JICA)のプロジェクト事業に関連している場合は右承認を得ることはほぼ不可能、としながらも、③次年度予算申請(3~4月)で申請に含める、こととなった。

(7) その他(PC 機器の拡充: NORAD ファンド)

一連の協議の後、NAPE 内の施設を視察した。特記事項として、新規にパソコン(デスクトップ型)25台が NORAD ファンドにより供与されていたことが挙げられる(ただし未設置)。研修に使われる予定とのことで、今後プロジェクトで支援する研修活動とも関連する可能性がある。

2 - 2 - 5 事前評価調査の今後の計画

- ① 3/1: PO ワークショップ(於 NAPE、モデレーター高橋コンサルタント団員)
PDM の活動をタイムスケジュールに落とす。PDM 案の作成時と同様、参加型とする。参加予定者は NAPE 専門官、マイメンシン PTI 校長・教官、協力隊員、UEO 及び AUEO (Sadar 及び Halagat)、荻野専門家など。
- ② 3月中: Division (管区) 事務所の訪問、活動状況等調査、関連資料の入手
- ③ 3月中: 収集済資料(ベンガル語)の日本語訳完成
- ④ 3月18日前後: PDM 第二案の完成、バングラデシュ側及び本部への送付
- ⑤ 4月上旬: PDM・PO 最終版完成
- ⑥ 4/3 高橋コンサルタントダッカ発
- ⑦ 4/6-4/7: 帰国報告会

以上

